

絆 求 め て

7月20日発行

文責 私学振興専門員 久保田学

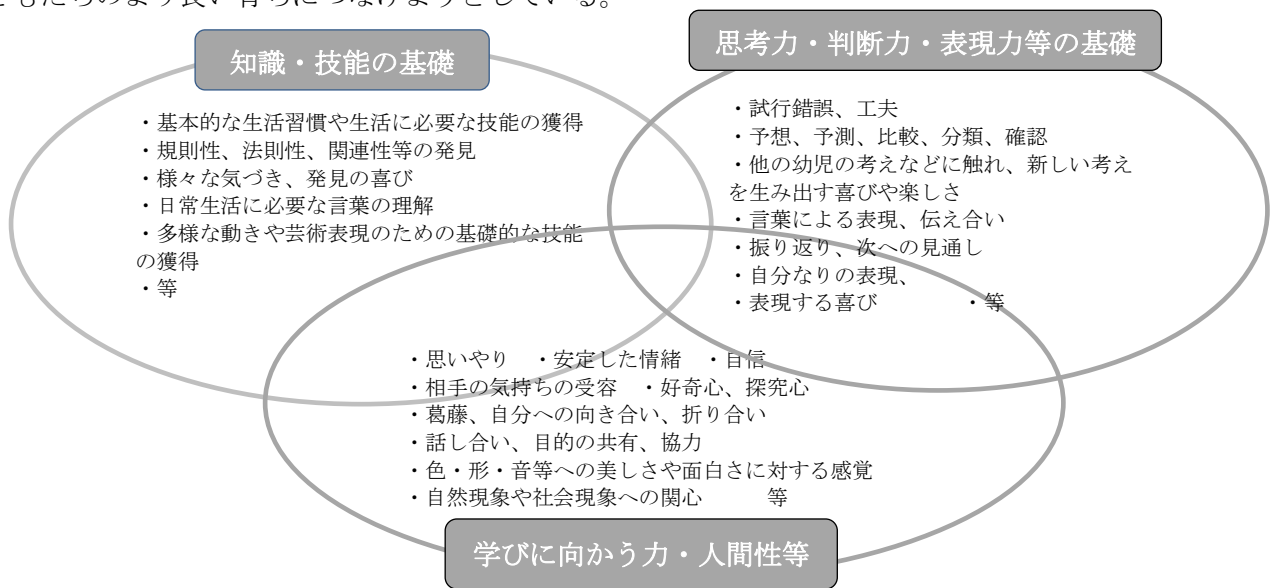


第28次研究プロジェクト「研究紀要」からの学び

先日幼稚園協会に一冊の研究紀要が届きました。(一社)大阪府私立幼稚園連盟教育研究所からのものでした。以下に、参考になったことを紹介します。

<資質・能力の育ちでは>

○幼児教育で育みたい資質・能力の整理図を活用し、園での活動を振り返り、活動の評価と位置づけをしている。これにより、子どもの姿から、「何が育ったのか」「何が育とうとしているのか」を明らかにし、子どもたちのより良い育ちにつなげようとしている。



※保育の振り返りとして、上の図の項目にチェックをして、保育者自身が園児の育ちを確認しながら、活動を進めるそうです。実施してみた感想では、

○保育を振り返り「こんなところが良かった!」と感じることは子どもの育ちにつながっていました。また、「あ～(保育者的には失敗)」と感じる出来事の中でも子どもたちは何かを学びつかんでいます。Episodeにもあるようにそれは保育のねらいから外れたものかもしれませんが、保育者の意図からも外れたものかもしれません。でもそこで育っているものも間違いなくあると感じます。

<異学年や同学年のつながりの中での育ちでは>

..「With コロナ」で、「縦割り運動会をやってみた」との実践が載っていました。実際の取り組みから横割りのメリット、縦割りのメリットを次のようにまとめています。

横割りのメリット	縦割りのメリット
「興味関心の広がり」「話し合いや探究活動などの追究」「知識・理解の深まり」	「責任感の醸成」「リーダーシップの発揮」「コミュニケーションの深まり」
「興味関心」「追究」「共感・共有」「刺激し合う」「調整力」「行動力」「充実感」「チームワーク」の育ちが見られる	「期待」「意欲」「リーダーシップ」「責任感」「自信」「相手の立場になって考える・伝える」「試行錯誤・工夫」の醸成が図られる

○実践した先生の感想…コロナウイルス感染対策が始まり、活動や遊ぶ場も同じ学年のみになり、異年齢の関わりが全くなくなりました。その中で、他園の状況や縦割り保育の内容を聞き、コロナ禍では、何ができるのか?考えました。やはり縦のつながり、関わりを持つことは5歳児にとって改めて大切だと実感しました。これからも、できないと諦めるのではなく、やってみるを心がけていこうと思います。

<育ちを伝えるでは>

研究冊子の保護者との連携には、「幼稚園で子どもたちは保護者と離れ、同年代の仲間や保育者と一緒に過ごします。保育者は、一人一人のことをよく理解し、発達に合わせた援助ができるように、家庭と園が円滑な関係にあることが望ましいと考えられます。保護者と保育者のコミュニケーションがうまく図られ、家庭と園のそれぞれの場における子どもの様子や園の教育方針をお互いが知ることによって、相互の理解ができ、信頼関係が成立します。保護者と保育者が同じ目線で、子どもたちの成長を支えていくために、各園で様々な工夫を凝らしています。」との文章がありました。現場の保育で、こども達と試行錯誤する日々、しかしそのような状況がなかなか家庭と共有できないという状況は、多くの園でも悩みの一つではないかと思えます。とりわけコロナ禍にあり、様々な活動が制限される今、その事は非常に大きな課題と言えます。こども達の育ちを伝える手立てとして、以下のような内容が紹介されていました。
→クラスだより・園だよりの配布、降園時のお知らせ、保育参観の実施、通信アプリの利用、クラス懇談会・個人懇談会の実施、在園児・卒園児へのアンケートの実施、PTAとの連携…（詳しくは、研究冊子をご覧ください）

連携していく上で大切な事が3つ示されていたので、紹介します。

(1) 保護者に伝えるために意識していること

○子どもが育ったという結果だけでなく、育とうとしている過程こそが子どもたちにとって、とても大切であることを伝えること。そして、可視化・見える化を意識し、より具体的に伝わる工夫をしながら保護者と連携すること

(2) 伝えるにあたり大切なこと

○就学前の目に見えない育ちや資質能力を保護者に、小学校に伝えていくこと
○試行錯誤し続ける保育者であること
○コロナと向き合い子ども達の経験を奪わずに、新しい保育も取り入れていく姿勢

(3) 子ども達の育ちを職員全員で共有していくためのチェックリスト

こどもの育ちについてなど、園内研修を実施していますか？
 同僚性の向上をねらいとした園内研修、またはその時間が持っていますか？
 若手の職員が学べる機会がありますか？
 保育の見せ合いを実施していますか？
 子ども達の育ちについて振り返り会議をしていますか？
 学年・預かり等各部署を超えた振り返り会議や子ども達の育ちについての共有の時間がありますか？
 振り返り会議では、参加職員全員が子ども達の育ちについて話す機会がありますか？
 管理職・主任等が加わった子ども達の育ちについての共有の時間がありますか？
 園内研修や振り返り会議では、子ども達の写真を用いて育ちを共有していますか？
 子ども達の育ちや、学ぼうとする姿について、写真を用いて話す機会がありますか？
 子ども達の育ちや姿を記録として残していますか？
 他学年の活動内容や、子ども達の育ち、姿が共有できていますか？

職員間で子ども達の育ちを共有していくことは、非常に大切なことであることは、よく分かっています。しかし、実際には日々の忙しさからそのゆとりが持てない状況があるのではないのでしょうか。おそらくそのようなジレンマの中で、各園では様々な工夫がされているのではないかと思います。

私は中学校での教職経験が長かったのですが、中学校では、先生方が授業をしないうちの空き時間があったり、放課後に教科会の時間がとれたりして、何かを議論できる時間的なスペースがあります。しかし、小学校の低学年や園の先生方にはそのような時間はなかなか持ちづらい現状があると思います。それだけに、子ども達の育ちを共有できる何かしらの手立てが必要となります。皆さんの園では、どのような工夫をしていますか。ぜひそんな情報交換ができるといいなと思います。「私は、私の園では、こんな工夫をしています。」そんな情報がありましたらぜひ、事務局にお知らせください。